

## 令和元年中における運転管理者等選任事業所の交通事故発生状況

- 1 本資料は、千葉県内で発生した安全運転管理者選任事業所、又は運転代行業（以下「安管事業所」といいます。）の従業員が業務中又は通勤中に関係した人身事故を抽出・分析したものです。物件事故（人の死傷を伴わない事故）の数値は含まれていません。
- 2 本資料には、他県の安管事業所の従業員が起こした事故の数値が含まれていますが、本県の安管事業所の従業員が他県で起こした事故の数値は含まれていません。

### 1 県内の発生状況

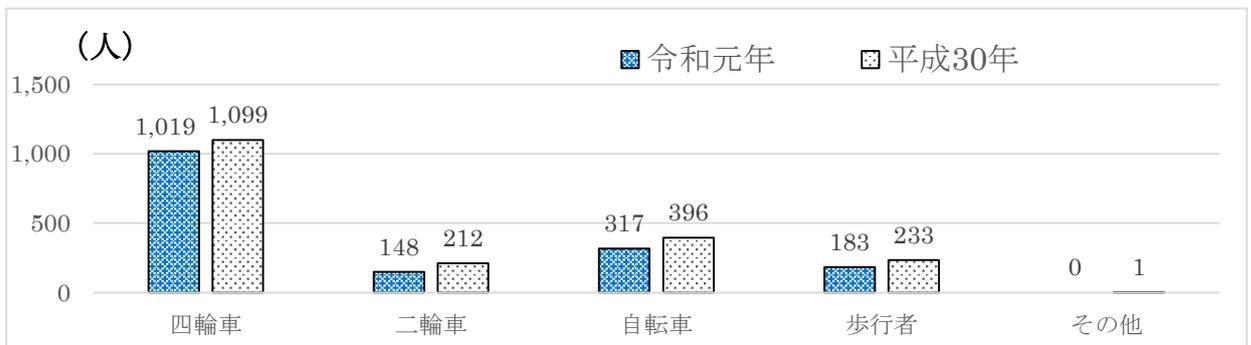
	12月中				累 計				
	令和元年	平成30年	増減数	増減率	令和元年	平成30年	増減数	増減率	
発生件数	139	142	-3	-2.1	1,362	1,601	-239	-14.9	
昼	日の出1時間後	9	17	-8	-47.1	57	86	-29	-33.7
	その他昼	58	56	2	3.6	821	988	-167	-16.9
	日の入1時間前	13	9	4	44.4	97	104	-7	-6.7
	昼計	80	82	-2	-2.4	975	1,178	-203	-17.2
夜	日の入1時間後	15	13	2	15.4	120	134	-14	-10.4
	その他夜	33	40	-7	-17.5	240	265	-25	-9.4
	日の出1時間前	11	7	4	57.1	27	24	3	12.5
	夜計	59	60	-1	-1.7	387	423	-36	-8.5
死者数	1	4	-3	-75.0	16	19	-3	-15.8	
負傷者数	172	161	11	6.8	1,651	1,922	-271	-14.1	
重傷者数	10	16	-6	-37.5	102	146	-44	-30.1	
軽傷者数	162	145	17	11.7	1,549	1,776	-227	-12.8	

### ○ 概略

令和元年中における安管選任事業所従業員に係る交通事故発生件数は、平成30年に比べマイナス14.9パーセント、負傷者数はマイナス14.1パーセントと、大幅に減少しました。

令和元年中の死者数は16人と前年比マイナス3件でしたが、平成29年の死亡事故が6件であったことを踏まえると、依然として厳しい状況にあります。また、死亡事故16件中11件が高齢者被害に係る事故ですので引き続き高齢者に対する思いやり運転に心がけてください。

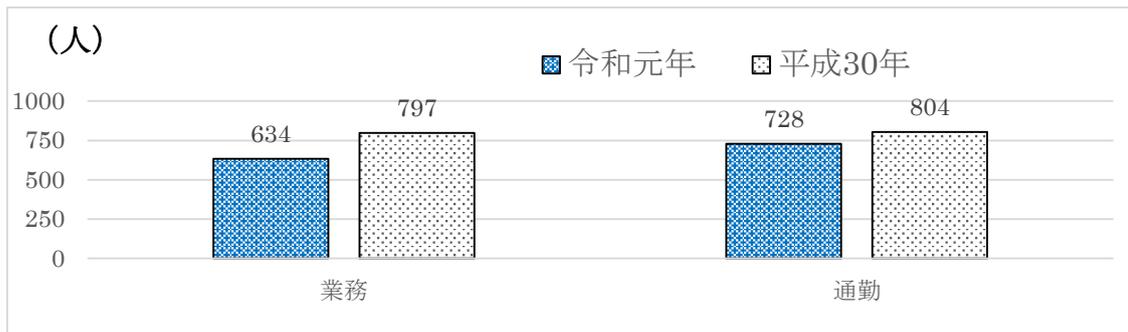
### 2 死傷者の状態別



- 死傷者の状態別では、四輪車乗車中が最も多く1,019人（61.1%、前年比-80人）、次いで自転車乗車中が317人（19.0%、前年比-79人）となっています。

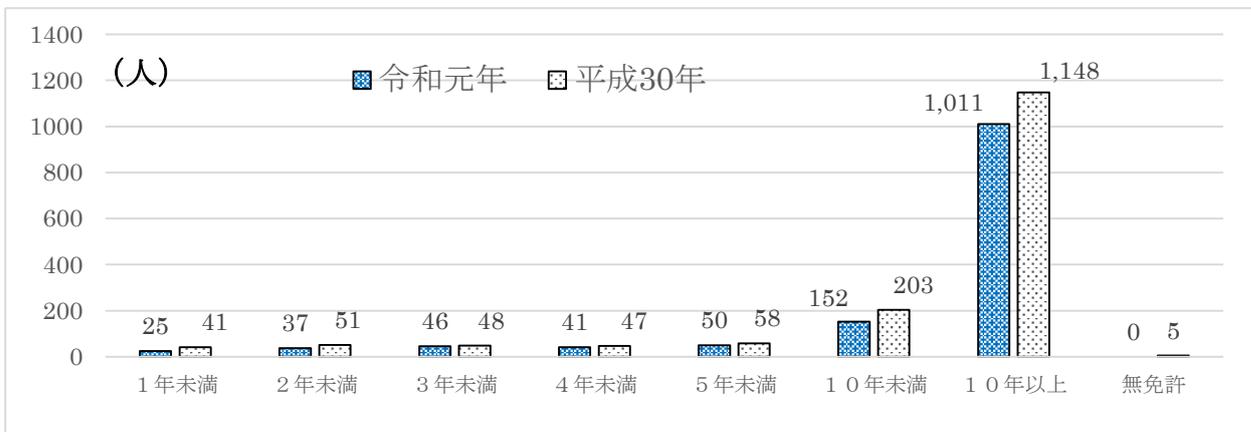
歩行者は183人（11.0%、前年比-50人）ですが、183人中9人が死亡しています。対歩行者事故の20件に1件が死亡事故になっていますので、特に歩行者に注意を配る運転を徹底して下さい。

### 3 第1当事者の運行目的



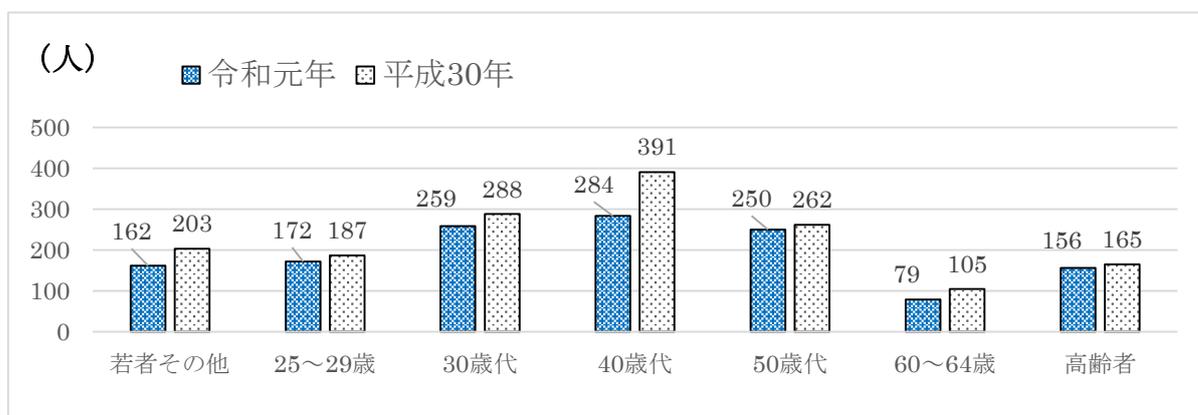
- 第1当事者の運行目的は、業務中が634人（46.6%、前年比-163人）と大幅に減少した半面、通勤途中が728人（53.4%、同-76人）とその比率が逆転しています。通勤中の事故を防止するため余裕を持った出勤をすると共に、見通しが悪い交差点が多い裏通りは避けるなど、通勤経路の見直しも検討して下さい。

### 4 第1当事者の免許経験年数



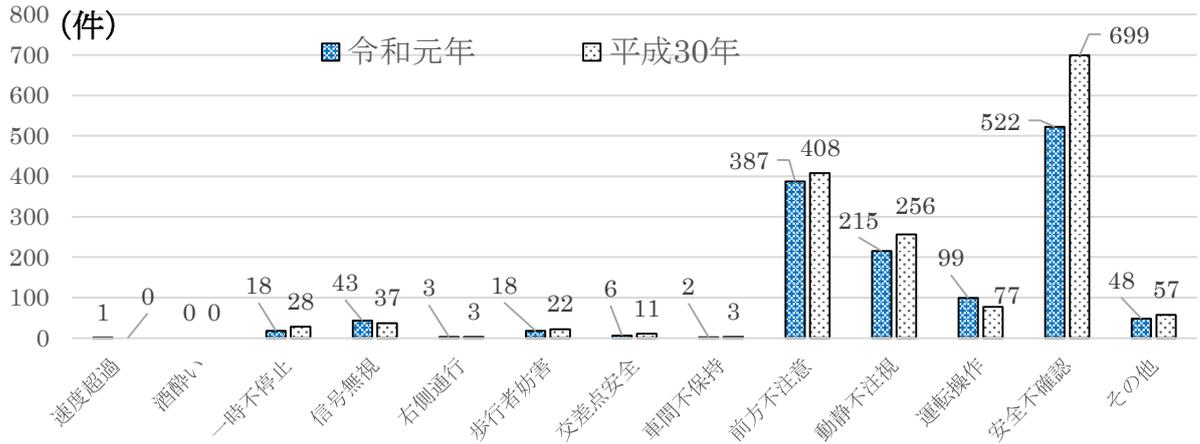
- 第1当事者の免許取得経過年数別では、経過年数10年以上の者が1,011人（74.2%、前年比-137人）と最も多く、次いで5年以上10年未満の者が152人（11.2%、同-51人）でした。1年未満から5年未満の者の合計は199人（14.6%、同-46人）でした。運転経験の少ない従業員に対する安全教育はもとより、ベテラン従業員に対してもきめ細かい安全教育が必要です。

### 5 第1当事者の年齢層



- 第1当事者は40歳代284人（20.9%）、30歳代259人（19.0%）、50歳代250人（18.4%）の順となっており、60歳以上は235人（17.3%）と全体に占める構成率は低いものの、雇用の絶対数から考えれば、高齢者層が第1当事者になる比率は高いと言えます。

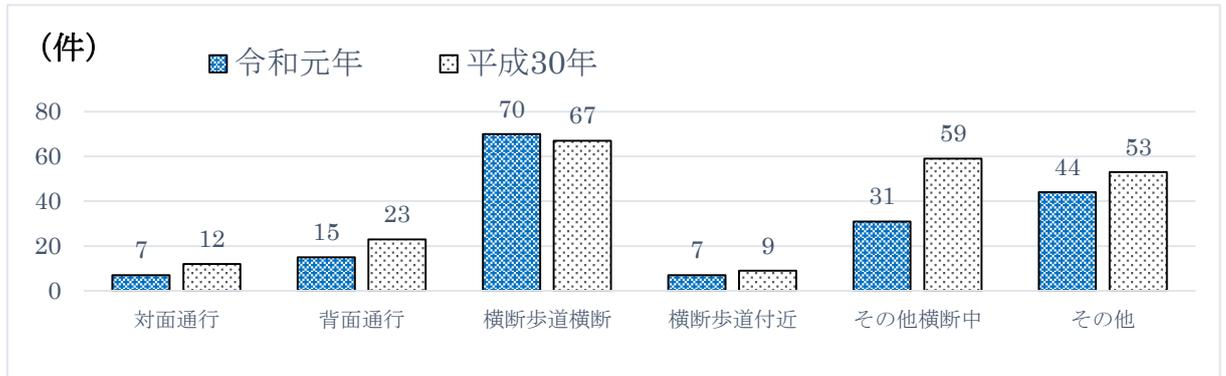
## 6 第1当事者の違反・原因別



○ 事故原因は、前方不注意、動静不注意、運転操作不適、安全不確認などの安全運転義務違反が計1,223件で事故原因の89.8%を占めています。

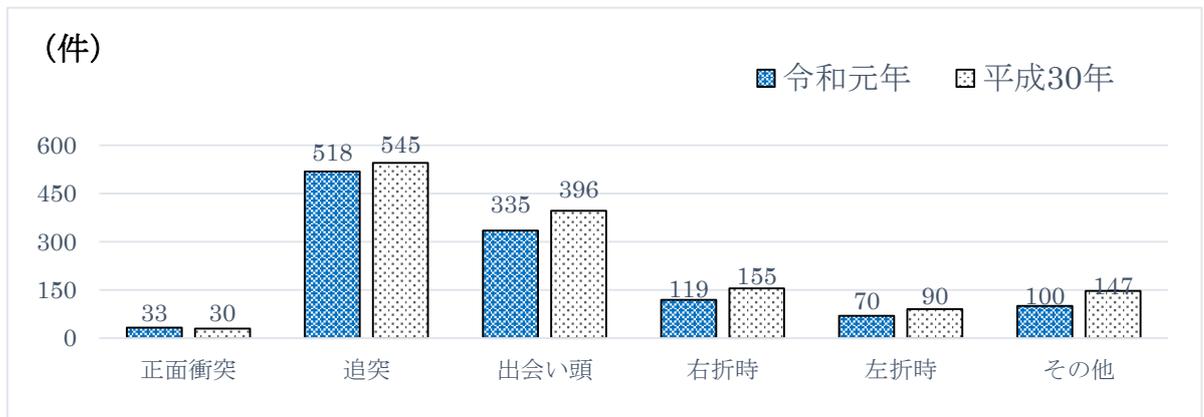
## 7 事故類型

### (1) 人対車両 (計174件)



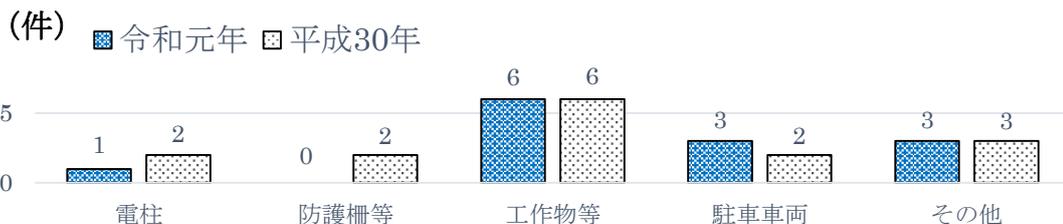
○ 横断歩道横断中の事故が70件で前年比+3件と最も多くなっており、これを含めた横断中（横断歩道及びその付近、その他横断中）の事故は計108件で、人対車両の事故の62.1%を占めています。人対車両の事故は重傷事故に発展する可能性が高いので、ゼブラストップ運動（横断歩道における歩行者優先）の推進をお願いします。

### (2) 車両相互 (計1,175件)



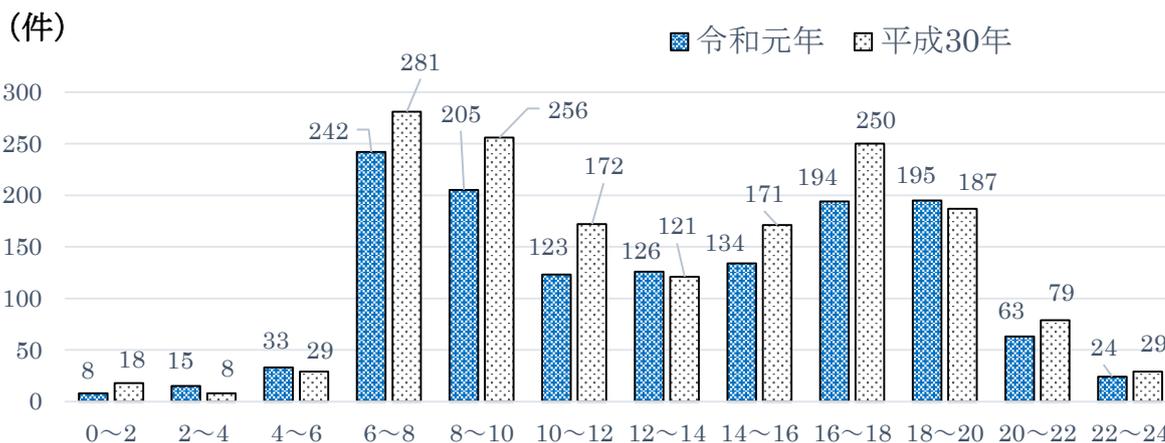
○ 追突の518件（全事故の38.0%、前年比-27件）が最も多く、次いで多いのが出会い頭の335件（全事故の24.6%、同一-61件）です。出会い頭事故は重大事故に発展する可能性が高いので、見通しの悪い交差点における徐行・停止と左右の安全確認の徹底をお願いします。

### (3) 車両単独 (13件)



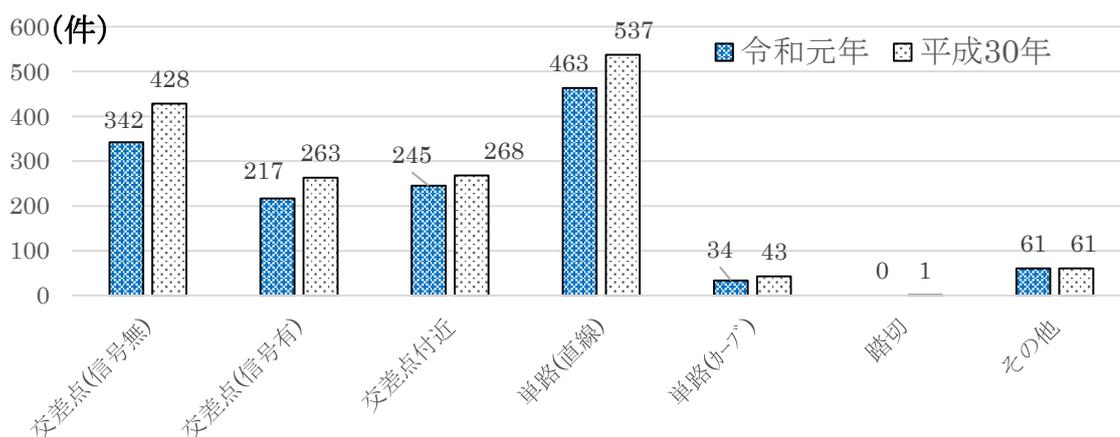
○ 令和元年中の車両単独事故は13件で、前年比-2件です。

## 8 時間帯別



○ 時間帯別で最も多いのは、6時から8時までの242件(17.8%、前年比-39件)で、次に8時から10時までの205件(15.1%同-51件)でした。6時から10時までの時間帯に447件、32.8%、また、16時から20時までの時間帯に389件、28.6%の事故が発生しています。朝夕のラッシュ時に事故が集中していますので、朝のラッシュ時は時間的な余裕を持った出勤や出発を心がけると共に、夕方のラッシュ時は疲れで注意力が低下しないよう、気を引き締めて運転してください。

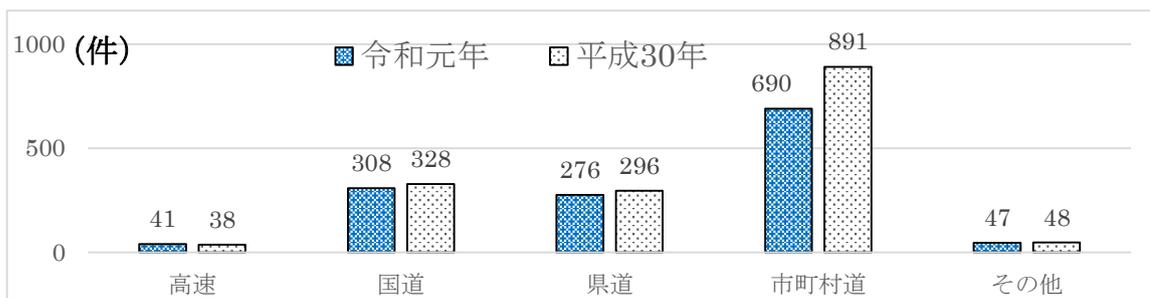
## 9 道路形状別



○ 道路形状別では、交差点及び交差点付近の事故が合わせて804件(59.0%、前年比-155件)でした。単路(直線)の事故は463件(34.0%、同-74件)と双方とも減少しました。

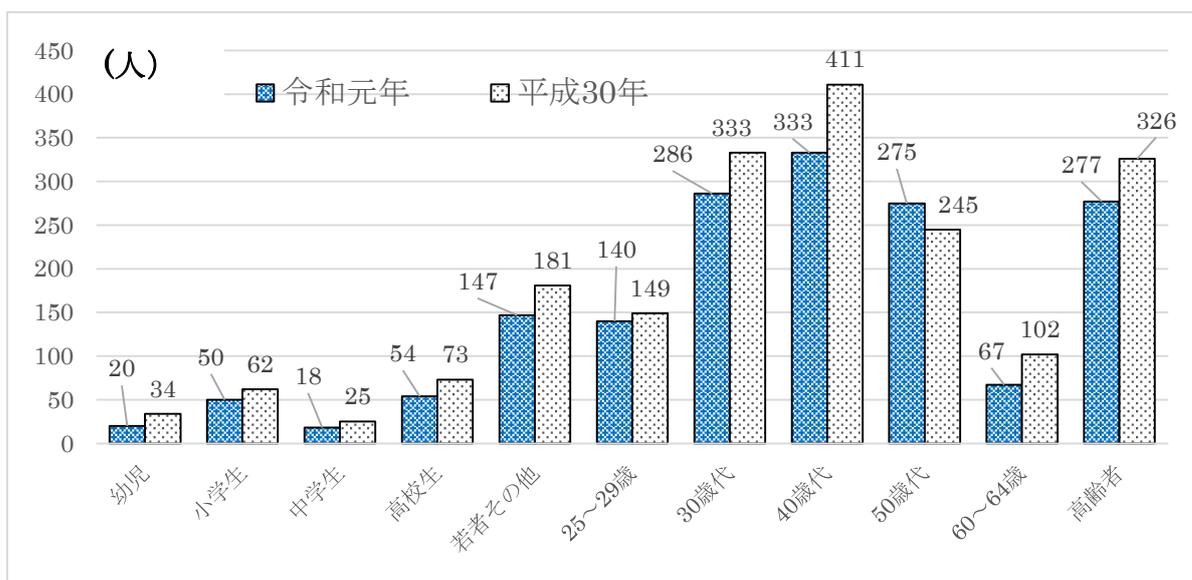
追突事故(事故形態の38.0%)の多くが単路(直線)で発生しているため、道路形状別では単路(直線)が最も多くなっています。

## 10 道路別



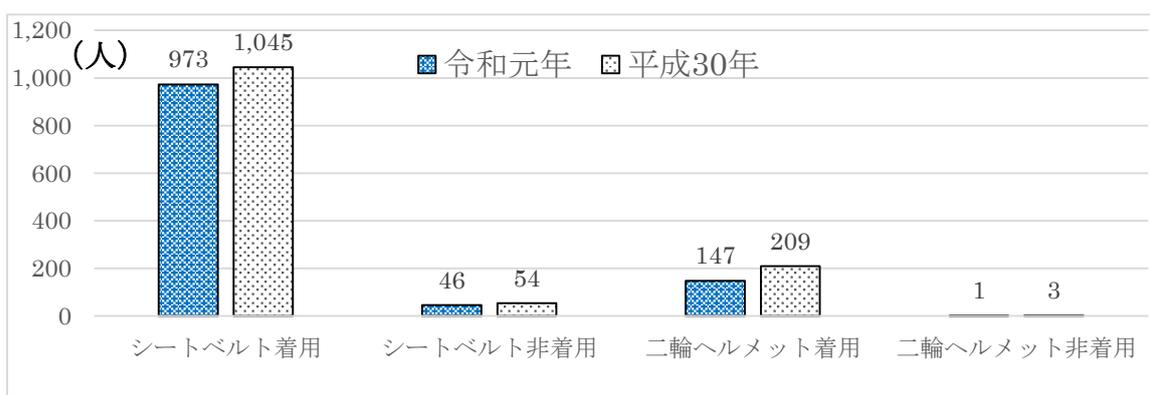
- 道路別では、市町村道が最も多く 690 件 (50.7%、前年比-201 件)、次いで国道が 308 件 (22.6%、同-20 件)、県道が 276 件 (20.3%、同-20 件) でした。

## 11 死傷者の年齢層別



- 死傷者の年齢層で多かったのは、40 歳代の 333 人 (20.0%、前年比-78 人)、次いで 30 歳代の 286 人 (17.2%、前年比-47 人) となっています。

## 12 シートベルト・ヘルメット着用状況



- 四輪車の死傷者の内、シートベルトを着用していたのは 973 人 (95.5%)、非着用は 46 人 (4.5%) でした。二輪車の死傷者の内、ヘルメットを着用していたのは 147 人 (99.3%)、非着用は 1 人でした。